2025 年度

SGT　活動レポート

Stained Glass Art
第 1 回

7 月 24 日（木）、中学選択者による Stained Glass Art の 1 回目が 4 階技術家庭科室で始まりました。2 時間×3 回で 1 作品を完成させます。今年は、おやすみランプを製作します。講師は、ステンドグラス工房かわもとのかわもとみえ先生とインストラクターの遠藤恵美子さん、岡田あかねさん、赤堀清子さんに御指導いただきます。みえ先生は、1996 年にお父様が経営するステンドグラス工房かわもと入社後、2006 年から 2007 年にかけてアメリカのオレゴン州のステンドグラス工房で技能を学び、2013 年にはステンドグラス 1 級技能工芸士の資格を取得、SGAJ(日本ステンドグラス協会)公認会員となられました。現在は、静岡市沓谷に工房構える日本を代表するステンドグラスアーティストとしてカトリック清水教会のステンドグラスの修復や静岡市出身で大正から昭和の始めにかけて活躍したステンドグラス工芸家の小川三知の残した数々の作品の修復に深く携わっています。

第 1 回は、おやすみランプの外枠のデザインを決めます。かわもと先生から作品制作上の全体の作業手順と注意事項及び本日の作業についてのお話を聞いたのち作業に入りました。まずお題決めです。 ストレート、スクエア、富士山、アンティーク、お月さまといったデザインの中から自分が気に入ったものを選びます。デザインが決まったら各色ガラスのピースを上手く組み合わせるためにテンプレートとなる型紙を作ります。次にガラスを選びます。ガラスは太陽の光に照らしてみると、色ガラス本来のきれいな色が映し出されます。お休みランプの四方を構成する色ガラスを単色ではなく複数の色ガラスを組み合わせることで素晴らしい色合いを作っていきます。どの色とどの色を組み合わせるのか、またガラスのどちらの面を表にするのかをじっくり決めていきます。ここまで出来たらいよいよガラスのカットに入ります。まず、かわもと先生がオイルカッターを使い、お手本を見せてくれました。次に生徒たちが普通のガラスを使って切り割る練習をします。ガラスは基本的に傷を付けたところから真っ直ぐに割れるため、湾曲したところが多いガラスピースは大まかに外周をカットしたあと、鰐口ペンチを使い少しずつ丁寧に余分な箇所を割りとっていきます。かわもと先生のデモストレーションのあと、生徒たちはまず普通のガラスをオイルカッターで切り割っていきます。筋を入れたところを中心にしてその両端を両手で持ち、力を入れて折り割ります。最初はおっかなびっくり作業していた生徒も慣れてくると大胆にカットしていくようになります。全てのガラスピースを色ガラスから切り出したら今日の作業は終わりです。

次回は、7 月 28 日(月)です。各ガラスピースをルーターで外枠の線に沿って削り、少しずつ削り取って形を整えていきます。お楽しみに。

本日の作業工程です。

作品サンプルの表面です。

作品サンプルの裏面です。

完成すると、このように美しく光ります。